

アルミ情報 | 402

ALUMINUM INFORMATION MAGAZINE ● 2024 SUMMER



TOYAMA ALUMINUM INDUSTRIAL ASSOCIATION

03

2024年度
定期総会開催

05

第46回
優良従業員表彰

09

令和6年4月例会
「これまで」と「これから」
——立場いろいろ
高岡法科大学 教授 高橋 正樹氏

06

令和6年2月例会
最近の金融経済情勢について
日本銀行金沢支店 支店長 吉濱 久悦氏

12

アルミ産業に関する
高岡市の動向や支援
高岡市産業振興部産業企画課 課長 今方 順哉氏

14

黒部の自然・環境を発信する美術館
黒部市美術館 館長 野入 潤氏

16

会員企業紹介 | 36
株式会社宮木製作所

18

NEWS & TOPICS

20

新入社員研修レポート

21

各委員会の動き・98
アルミの統計

23

私のひととき 第96回
アイシン軽金属株式会社 代表取締役社長 西川 一浩氏

22

新会員紹介

VOLUME
402

2024年5月24日（金）定期総会・理事会を開催、2023年度事業と計算書類の審議・承認を頂きました。また、任期満了に伴う役員改選で、新たな理事として、平能 正三氏（三協立山㈱ 代表取締役社長）、荒井 友里氏（北陸アルミニウム㈱ 常務取締役）、林 秀彦氏（大栄建材㈱ 専務取締役）、竹山 英夫氏（事務局長）の4名が就任されました。理事会では会長に平能 正三氏が選出され、総務広報委員会の委員長に廣上 利晴氏が就任されました。

平能会長挨拶要約



当協会は、今から半世紀以上前の昭和39年2月に前身である高岡アルミニウム懇話会として創設（創立）され、平成25年には創立50周年を節目に「一般社団法人富山県アルミ産業協会」に名称を変更しました。創立者の竹平政太郎氏から歴代の会長そして前任の荒井会長、また役員の方々のたゆまぬ努力により、富山県を代表する産業である、アルミ産業の発展に貢献して参りました。

私自身、このような長い歴史と伝統ある協会の会長を仰せつかり、その責任の重さを痛感しているところでございます。微力ではございますが協会発展のため努力して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

さて、私どもアルミ産業でも、原材料やエネルギーの高騰に加え、為替変動の影響を受ける中、人手不足や賃金の引上げなど、多くの課題を抱えます。また人口減少による建築市場の縮小傾向等、市場の変化もあります。その中でカーボンニュートラルと合わせてサーキュラーエコノミーに向けた資源循環を実現していく役割が求められています。アルミ産業は一方でスチール、カーボンファイバーなど他材料との競争もあります。アルミはリサイクルを繰り返すことにより、他材料と比較しても現状、カーボンニュートラルに向かい多大に貢献します。産官学金連携を深めアルミ産業が社会貢献をし、かつ競争力を高めることに富山県アルミ産業協会は努力して参ります。人材育成にも寄与し、柔軟な発想とスピード感を持った運営を心がけ、会員方々との協働により、事業展開に取り組む所存でございます。

会員各位におかれましては、アルミ産業の活性化と地域の発展に一層寄与され、当協会への更なるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、心よりお願い申し上げます、会長就任の挨拶に代えさせていただきます。



定期総会開催

2024年度事業計画(自 2024年4月1日～至 2025年3月31日)

❖ 計画の基本方針

富山県アルミ産業の持続的発展を目指し、脱炭素化・SDGsの取り組みの推進により、アルミの環境負荷低減を図り循環型社会の形成に努め、会員企業の新規事業創出や技術開発による新たな付加価値を創出すべく、産学官が連携する新事業の展開を図る。

国の方針「働き方改革」に合わせ、専門的知識や技能習得等、生産性向上を目的とする人材開発支援を推進すると共に、行政と連携した事業と情報の発信を行う。

❖ 重点項目

1 交流事業の推進と情報発信

- 協会の事業活動を通じて、会員相互の交流や情報交換の機会創出を推進
- 会員企業の新たな事業創出を狙い、富山県産業技術
- 研究開発センター・富山大学・富山県立大学など公的研究機関やものづくり関連団体との交流事業の推進
- 富山県新世紀産業機構など行政の産業振興支援施策情報の発信

2 技能・技術の向上、能力開発事業の推進

- 「富山県ものづくり産業未来戦略」に参画し、環境・社会等の課題解決に向け産学官が連携したアルミリサイクルの高度化や省エネルギー等の取り組みによる、脱炭素化・環境負荷低減に貢献すると共に、会員企業の新たな事業創出に結びつく技術開発の推進
- インフラ構造物等の新規事業に向け、他団体との交流会によるアルミの新たな用途開発・技術開発の推進
- 生産性向上と働き方改革に結びつくデジタル技術活用事業の推進・展開
- 時代の変化に即応し、人材育成に結びつく能力開発セミナーとデジタル技術・先端技術を活用できる人材の育成支援や国の支援事業「生産性向上支援訓練」の推進
- アルミの新たな事業展開を模索する脱炭素化・SDGsに係る「アルミ用途開発講演会」の開催

3 アルミ産業振興事業の推進

- HPを活用した富山県のアルミ産業情報の発信
- 県と連携したインターンシップ事業などを活用した人材確保の推進
- 官公庁技術職員を対象とした地元会員企業の商材・技術紹介研修会の開催

❖ 各委員会の事業計画

1 総務広報委員会

- 定例会の開催(年4回:4月、6月、10月、2月)
- 「あるみ情報」メール便(毎月)の発信と「アルミ情報」の定期発行(年3回)
- 親睦事業の開催(親睦ゴルフコンペ、暑気払い懇親会、年末懇親会)
- 市民功労、県表彰、その他会員顕彰の調査対応

2 経営労務委員会

- 優良従業員表彰式の企画・運営(第46回)
- 企業訪問研修(工場見学及び経営者との意見交換)
- 能力開発セミナーの企画・開催
- 生産性向上支援訓練の開催
- 富山大学軽金属材料共同研究棟・富山県立大学DX教育
- 研究センター等を活用した会員企業技術者の育成支援
- 生産性向上、働き方改革に向けたデジタル技術活用事業の推進
- デジタル技術習得の勉強会・研修会の開催
- 呉西圏域ビジョンへの参画推進

3 技能技術委員会

- 軽金属教育夏季講座の開催(第54回)
- アルミ用途開発講演会開催(第14回)
- 先進地企業視察の開催
- 商材研究会の開催(官公庁案件への商品・技術情報発信)
- 産業支援施策説明会の開催
- 軽金属接合研究会への参画

第46回 優良従業員表彰式

定期総会・理事会に続いて、第46回優良従業員表彰式が行われ、各社推薦の40名の方が受賞されました。

表彰式では、平能 正三会長の挨拶の後、表彰状ならびに記念品が授与され、受賞者を代表して野村 和弥様(三協立山(株)三協マテリアル社)が謝辞を述べられました。また来賓として、富山県知事(代理：富山県理事・商工労働部次長 舟根 秀也氏)、高岡市長(代理：副市長 河村 幹治氏)をお招きし、ご祝辞を賜りました。結びに本表彰を主管する経営労務委員会を代表し、花木委員長の挨拶で閉会しました。

受賞されました皆様、誠におめでとうございます。



第46回優良従業員表彰受賞者

氏名	会社名	勤続年数	氏名	会社名	勤続年数
野村 和弥	三協立山(株)三協マテリアル社	40年	山崎 慶太	協立アルミ(株)	26年
平柳 順子	北星ゴム工業(株)	38年	川添 展洋	(株)ヤマシタ	24年
二口 智晴	(株)広瀬アルミ	37年	宮原 裕之	三協ワシメタル(株)	23年
木下 庄市	アイシン軽金属(株)	37年	鈴木 智一	立山エクストーン(株)	23年
上加世田 光宏	ヤマダアルミ建材(株)	36年	塩田 由紀夫	(株)タケシタ	21年
杉田 修	ST物流サービス(株)	36年	本多 隆洋	(株)カシイ	21年
上田 博	協和紙工業(株)	36年	奥原 洋一	(株)三輝	20年
二木 光一郎	三協立山(株)タテヤマアドバンス社	35年	中野 智亜子	(株)TAN-EI-SYA	19年
古野 淳三	三芝硝材(株)	34年	濱田 りえ子	(株)竹中製作所	18年
畠山 輝江	(株)三和製作所	34年	嶋田 卓真	戸出化成(株)	18年
細川 穰	(株)北陸LIXIL製作所	33年	堀田 純平	テクノメタル(株)	18年
金 かおり	三精工業(株)	32年	吉田 真理子	(株)三栄	18年
山内 秀晃	(株)広上製作所	31年	富樫 吉規	富源商事(株)	18年
谷坊 忠	サンクリエイト(株)	31年	飯久保 一美	(株)高岡ケージ工業	17年
大西 広美	三協化成(株)	31年	松木 広之	浦島建材(株)	16年
山本 佳嗣	三協立山(株)三協アルミ社	31年	富山 佳織	(株)トナミ産業	16年
原 聖二	STメタルズ(株)	30年	伊藤 克宣	三協テック(株)富山	15年
百川 好光	北陸アルミニウム(株)	29年	中山 鉄也	(株)丸協	15年
嶋 康策	(株)ナガエ	29年	竹澤 透	ゼオンノース(株)	12年
桶川 修司	宮越工芸(株)	27年	堀川 勝	大栄建材(株)	11年

(勤続年数順・敬称略)

最近の金融経済情勢について



日本銀行金沢支店 支店長
吉濱 久悦 氏

01

能登半島地震への対応

まず、元日の能登半島地震で亡くなられた方々とご遺族に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災者の皆さまにはお見舞い申し上げます。また、被害を受けた会員企業・団体におかれては、一日も早い復旧を心よりご祈念申し上げます。

日本銀行としては金融インフラ・サービスの提供という観点で、被災地における金融機能の維持に努めています。元日の発災直後から財務局、日本銀行で協議をし、翌2日、被災した4県（石川・富山・福井・新潟）において、通帳や印鑑などをなくした方等に必要な資金の便宜を図るよう、金融機関に要請しました。また、被災地においてお金の面で不便がないように、十分な現金を供給しました。さらに、津波で濡れたり火災で焼け焦げたりした損傷券が被災者から多く寄せられたので、その引き換えも行っています。

金融機関の営業状況は、珠洲・輪島・能登・穴水の4市町にある19店舗・24ATMのうち、1月10日時点で12店舗・9ATMが休業していましたが、2月7日時点では3店舗・3ATMまで減っています。

被災直後の経済としては支援物資などの現物に軸足があるので、お金を引き出すよりもATMに預けるニーズの方が多かったようですが、これからは復興に向けて財政資金による現金給付や保険金の支払いが行われるようになり、お金を払い出す方向に潮目が変わることが想定されます。また、金融機関では特別相談窓口を設けたり、災害復旧ローン、保証協会・政府系による資金繰り支援などを行っています。

能登半島地震が経済に与えた影響は現在、情報収集・分析中ではありますが、北陸はものづくりの地域ですので、全国の経済活動に大きな影響を与える恐れがないかという視点で調査しています。現段階で大きな影響は出ていないという情報も集まっている一方、生産設備の本格復旧がまだであるため、在庫でしのいでいるという話も聞こえてきています。従って、復旧に時間がかかれば、全国の企業活動に影響を及ぼしかねない面もあります。特に電子部品や医薬品関連、ニッチトップの製品を作っている企業は、気になるところではあります。

また、能登半島は北陸の観光・宿泊業において大きなウエートを占めています。今回の地震では、石川県の観光ブランドにとって重要な産業への影響は大きなものがあり、特に和倉温泉のダメージは甚大となっています。伝統産業である輪島塗や珠洲焼、農漁業などへの影響も、バランスの良い産業構成、地域の歴史という観点からは重要ですし、地震の被害からの復旧復興の姿は、北陸だけでなく全国においても関心事の一つだと思います。

02

地域経済の動向

日本銀行が今年1月に公表した地域経済報告によると、北陸の景気は「今後、令和6年能登半島地震の影響を注視する必要があるが、緩やかに回復している」という判断でした。東海は、自動車の供給制約が徐々に回復して生産が良くなっているため景気判断が上向きになっていますし、九州・沖縄においては、熊本での半導体の巨額設備投資のけん引もあって景気判断が上向きに修正されました。一方、近畿は「持ち直しのペースが鈍化している」という判断となりました。その要因は欧州や中国・アジアに対する輸出の弱さです。海外経済の最近の動向が、日本の輸出産業にも少し影を落としている状況となっています。

北陸地域の業況判断DIの推移を見ると、北陸はコロナで景況感が大きく落ち込んだ後、少しずつ回復し、昨年12月時点でプラス10とコロナ前の水準に戻っています。その背景として、人流の回復、特に高齢者の人流とインバウンド需要の回復があります。

北陸企業の売上高は、2022年度、2023年度の2年度連続で増加しました。コロナからの回復とともに、2022年度は大企業はともかく中小零細企業では価格転嫁が難し

地域経済報告(さくらレポート)

	【2023/10月の判断】	前回との比較	【2024/1月の判断】
北海道	持ち直している	⇨	持ち直している
東北	持ち直している	⇨	持ち直している
北陸	緩やかに回復している	⇨	今後、令和6年能登半島地震の影響を注視する必要があるが、緩やかに回復している
関東甲信越	緩やかに回復している	⇨	緩やかに回復している
東海	持ち直している	⇨	緩やかに回復している
近畿	一部に弱めの動きが見られるものの、持ち直している	⇨	持ち直しのペースが鈍化している
中国	緩やかに回復している	⇨	緩やかに回復している
四国	持ち直している	⇨	持ち直している
九州・沖縄	緩やかに回復している	⇨	着実に回復している

出所：日本銀行

いといわれ、増収しつつ減益という状態でしたが、2023年度は増収増益となっており、価格転嫁が中小零細企業にも広がっていることがうかがえます。ただ、個々で見ると、中小零細企業の収益環境は業種や個々の企業ごとにまだばらつきが見取れます。

こうした中、企業部門において、所得から支出への循環ともいえる設備投資は増えているところですが。単純な更新案件だけでなく、人手不足に対処するための省力化投資や環境対応投資も各社で進められており、それらがけん引して設備投資が全体として増えています。また、自動車のEV化関連の案件も最近が目立っています。

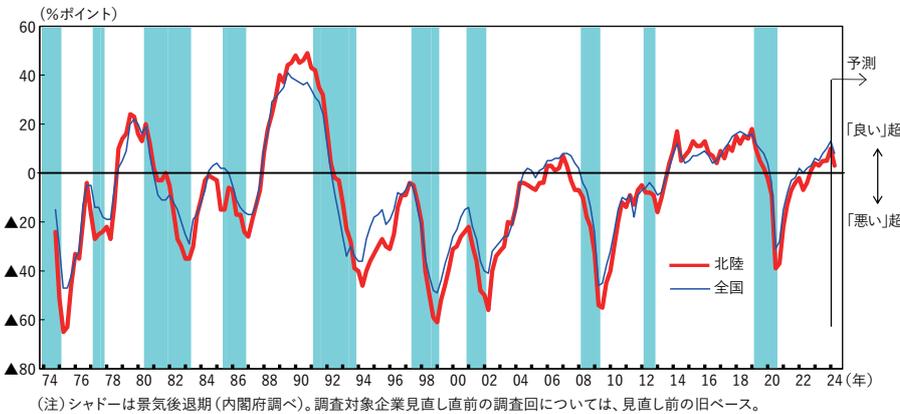
03 海外経済の状況

世界経済のここ30~40年の平均成長率は3%台半ばですが、国際通貨基金(IMF)の見通しによると、2023年度は世界全体で3.0%、先進国は1.5%と低成長率となっており、世界経済の回復ペースは鈍化しています。

米国では消費者物価指数(CPI)がピークアウトしており、インフレは縮小傾向にあります。インフレで特に悩ましかったのはサービス価格であり、サービス価格が落ち着いていると判断するのは尚早でしょう。コロナによる国内総生産(GDP)の落ち込みを約1年で回復し、なおも成長を続ける米国経済ですが、コロナで働き手が減ったことが賃上げに反映され、それがサービス価格の上昇に反映されて、また賃上げに反映されるという循環が、おもな背景です。米国のサービス価格の動向は今後の見極めポイントになるでしょう。米国経済は、景気後退を経ずに経済が回復するソフトランディングへの期待が高まり、それが米株高につながっています。日本においても企業収益が好調な中、米株高につられる形で株価がバブル期以上の水準まで上昇しているのが現状です。

北陸短観(2023年12月調査業況判断D.I.)

(1) 業況判断D.I.の推移(全産業)



(注) シャドーは景気後退期(内閣府調べ)。調査対象企業見直し直前の調査回については、見直し前の旧ベース。

(2) 概要

(「良い」-「悪い」・%ポイント)

		2023年3月調査	2023年6月調査	2023年9月調査		2023年12月調査			
				最近	先行き	最近	変化幅	最近	変化幅
北陸	製造業	▲2	2	2	▲2	6	4	▲2	▲8
	非製造業	6	8	9	7	12	3	5	▲7
	全産業	3	5	5	3	10	5	3	▲7
全国	製造業	▲4	▲1	0	2	5	5	2	▲3
	非製造業	12	14	16	11	18	2	12	▲6
	全産業	5	8	10	8	13	3	8	▲5

出所：日本銀行金沢支店

世界の貿易量は昨今停滞気味ですが、世界の生産量は堅調に回復しています。これは中国が貿易に頼らずに国内生産にシフトしているためであり、中国との貿易シェアが高い欧州経済は逆風が吹いています。また、ロシアからのエネルギー供給が止まり、割高な代替手段でエネルギーを調達しなければならず、欧州経済は二重の足かせによって米国経済ほど力強くないといえます。

世界経済の関心事の一つである半導体事業は、回復がいまだまだら模様です。半導体事業をけん引するのはAI関連需要ですが、AI関連の半導体メーカーは数社に限られており、業界全体にその恩恵が広がっていないためです。

米国経済は、コロナ禍での現金給付などで積み上がった超過貯蓄が徐々に取り崩されてコロナ以前に戻りつつありますが、個人消費はそれほど悪くない状況が続いています。この状況を支えているのは不動産や金融資産などの評価益ですが、裏を返せば米不動産市場の動向がリスクになるかもしれません。

中国の不動産市場は調整局面が長引き、新築住宅価格が地方都市ほど大きく落ち込んでいます。これまで都市の働き手を支えていた農民工は高齢化が進み、余力がなくなっており、住宅に余剰感が出てきているようです。政府は金融面でいろいろとてこ入れをしていますが、地方政府や融資平台（地方政府傘下の法人）の財務状況も併せて見ていく必要があると思います。

04

物価、賃金の動向

日本経済においては、輸入物価上昇を起点としたコストプッシュによる物価上昇は落ち着きを見せる一方、賃金と物価の好循環が強まることによって、サービス価格を中心に物価が上昇しており、物価上昇の軸足が移りつつあります。

賃金に関して言えば、人手不足感が強まる中、企業は高い収益を上げており、もう少し賃上げができる余地はあるのではないかと見ることができます。しかし、それが地域経済にも当てはまると言うのは早計です。中小零細企業では、収益が各社で結構ばらつきがあるからです。ただ、経済全体がそうした姿である以上、中小零細企業であっても賃上げに対応できる場所も出てくると思われます。その結果、賃上げができて人手を確保できた企業とそうでない企業の優勝劣敗がはっきりするということが起こりやすくなるかもしれません。

最近は転職サイトで転職する人が増えているという話もよ

く耳にします。労働市場の流動性の高まりも、賃上げの動きを加速するきっかけになるでしょう。2022年の正社員の転職率は全ての年代において2016年を上回っており、中でも20～30代の転職率が高くなっています。かつては人手が足りていると言っていた職場でも、今では人手不足を訴えるケースが増えており、若手に一層手厚く賃金を配分しないと人材を確保できなくなっています。ですから、ジョブ型の賃金と全体のベースアップの両方を考えていかなければなりません。

また、最低賃金近傍のフルタイム労働者への対処もこれからは社会的課題になっていきます。パートが多い事業所では「106万円の壁」や「130万円の壁」に直面し、最低賃金が上がると労働時間を減らさなくてはいけないという本末転倒なことも起こっています。この点については、社会制度の設計をどうするかという議論を深めていくきっかけにもなるのではないかと思います。

食料品の値上げに関しては、昨年いろいろなところ広がった感じがする一方、2022～2023年度はある程度コストリカバリーする形で各社が事業計画を立てています。今までは値上げした場合、その分を後付けで価格転嫁していましたが、そうではなくて先々の価格上昇も踏まえながら、値付けをしていく動きに変わってきているようです。各社へのヒアリングから値上げの理由を分析すると、最近はコストプッシュよりも、人件費に転嫁するためという話を多く伺うようになりました。

05

緩和的な金融環境は続く

私どもとしては、日本経済は賃金物価の好循環などによって良い流れに近づきつつあるのは事実だろうと考えています。ただ、地域経済の実情をつぶさに見れば、手放しで喜べるほど景気が良くなっているわけではありません。金融政策の現状の内容を修正するにしても、金利を急に大幅に引き上げて日本経済は大丈夫なのかという、まだまだそのような状況ではないだろうと思っています。緩和的な金融環境を維持していくことが基本線なのではないかと思うところです。

吉濱 久悦(よしま ひさよし)1970年2月生／東京都出身
出身校／学習院大学法学部

'92年 4月 日本銀行入行

'11年 6月 文書局企画役

'04年 5月 システム情報局調査役

'13年 6月 文書局管財課長

'04年 7月 システム情報局企画役

'17年 3月 秋田支店長

'06年 7月 政策委員会室企画役

'19年 6月 文書局参事役

'09年 7月 システム情報局企画役

'22年 3月 金沢支店長

「これまで」と「これから」——立場いろいろ

高岡法科大学 教授 高橋 正樹 氏



01

「役人」やってました

時代が移り変わり、自分の経歴も変わっていく中で、いろいろな立場から物事を考えることが次へつながっていくと日々感じています。

私はこれまで役人として、いろいろな改革に関わってきました。一つは行政改革です。三公社五現業改革とあって、国営で評判が悪かったものを民営化し、良いサービスを提供して料金も回収できるような好循環を生むためにいろいろな改革が行われました。もう一つは政治改革です。私が選挙制度審議会の事務局職員として働いていたときにできたのが小選挙区比例代表並立制です。25年たった今、政治とカネの問題がスキャンダルになっているのは大変悲しく思います。

立場いろいろ

■「役人」やってました～仮面ライダー自治省

- 31年間の「お役人」生活1977-2008
- 行ったり来たり、6つの地域～地方勤務通算16年
- 神奈川、宮崎、熊本、新潟（退職願8回～「骨を埋める」覚悟で）
- 東京も所詮「地域」の一つ＝地域的なダイバーシティ（多様性）
- そして～～高岡

元日に地震が発生したとき、私は金沢にいました。道路が通れなくなり、結局金沢に2日間ほどいましたが、もしも私が市長を務めていたら何が何でも高岡に帰っていたでしょう。災害時には、自治体のトップがいないと仕事が進まないことがあるからです。

かつてはトップに情報を上げ、トップが判断したことを実行するのが災害対策の基本でしたから、トップがどこにいて、どんな通信手段を持っているのかがまずは重要でした。しかし、トップがいらない空白の時間帯はどうしても生じてしまいます。ですから今は、指揮命令がなくても取りあえず動くための訓練をしており、まず自分が置かれた立場で何をするかを考えることになっています。それでもヘッドがいなければ身動きが取れないので、できるだけ早く連絡体制を確保することが必要です。

私が新潟県の副知事在任中に発生した中越地震では、孤立集落が多く発生し、マグニチュードの割に大きな被害が発生しました。震源の真上に位置する川口町（現・長岡市）では、発生から3日間も被害なし、死傷者ゼロで登録されていたのですが、これは通信が途絶し、被害報告ができなかったためです。被害情報が入ってすぐに自衛隊が救助に向かいましたが、いずれにせよ、初動態勢は非常に重要です。

阪神淡路大震災などの経験を経て、行政では3日間ぐらいは自助で生き延びられるように備えてほしいと願っています。行政としては悲しいメッセージなのですが、地震が起きた直後に助けに行けるわけがありません。情報収集には時間がかかりますし、Aさんを助ける前にBさんもCさんも助けなければならない場合もあります。ですから、3日間程度は何とか自助の力でできることはやっていくことになっています。

私が役人時代に遭遇した地震災害によって、いろいろな教訓が得られました。阪神淡路大震災は都市直下型だったので被害が非常に大きく、日本の港湾機能が壊滅的打撃を受けました。このときに大きな課題だったのはコミュニティの維持・形成です。神戸では被災者の避難を最優先した結果、住民がばらばらに配置されてコミュニティが崩れ、元に戻れなくなってしまいました。従って、コミュニティを維持しながら災害対策をすることが教訓となりました。中越地震では、生理用品やトイレの問題など、女性の立場で地震を考えることが一つのポイントになりました。東日本大震災では、津波と原子力災害を伴う複合災害により、生活再建が大変な道のりとなりました。

02

「市長」として

私は市長として大変恵まれた環境にいました。就任した年がちょうど開町400年だったのはラッキーだと思います。よく「高岡は歴史や文化の町だ」といわれますが、それだけではほとんど意味がなく、高岡が誇る歴史と文化はどのようなものかということが共有されなければなりません。

そこで高岡市は、「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡」として文化庁から日本遺産の認定を受けました。高岡には日本遺産にふさわしい、日本らしいたたずまいや空気が漂っており、それが高岡の歴史と文化だと思っています。また高岡には「面」の日本遺産と「線」の日本遺産があり、高岡地域全体の風土と北前船による交流の要素が高岡で交差していることは大きな特徴です。

そして、高岡には二つの国宝寺院（瑞龍寺、勝興寺）があります。京都は天皇や将軍がいた場所ですから国宝が多いのは当たり前ですが、それ以外に国宝寺院が二つある町はなかなかありません。そうした蓄積がなぜ高岡で生まれたのかということをおもひで再認識し、誇りを持つべきだろうと思います。

実は、国宝寺院の数にはかなりこだわっていました。瑞龍寺は既に指定されていたのですが、もう一つ欲しいと思っていたところ、私が市長在任時ではないのですが、勝興寺の国宝指定が実現しました。一つのお寺の中で1棟の建物だけが

恵まれた時代(1)

■開町400年と「歴史・文化」

- 前田家ゆかりの町民文化（面と線 [交流] 2つの日本遺産）
- 2つの国宝寺院（高岡山瑞龍寺、雲龍山勝興寺）
- 3つの歴史的町並み（重要伝統的建造物群保存地区）
- 国史跡（高岡城跡）
- 国名勝（おくのほそ道の風景地・有磯海（女岩））
- ユネスコ無形遺産（高岡御車山祭）



高岡山瑞龍寺



雲龍山勝興寺

国宝に指定されるケースは多いですが、勝興寺のように幾つもの建物が指定されているところはそんなにありません。国宝寺院が二つあるということは、建てた藩主や大工が立派だったというだけでなく、地域に国宝を育てるだけの文化力や経済力の蓄積があったことを示していると思います。

そして高岡には、三つの重要伝統的建造物群保存地区（山町筋、金屋町、吉久）があります。実は私が市長に就任したときは山町筋と金屋町の二つだけでした。重伝建を四つ持つ都市は京都、萩、金沢ぐらいしかありませんが、二つある町は全国にたくさんあります。だからこそ私は三つ目が欲しいと考えていました。そこで、吉久が元々候補となっていたので、頑張っって選定に向けて運動した結果、今では重伝建の数が全国単独4位になっているはずですが、それは地域に町並みだけでなく、町の中で営まれる文化がしっかりと根付いているからだと思っています。高岡のご家庭に行くとお香がよくたかかれていたり、一輪挿しが置いてあったりしますが、こうした文化水準の高さが高岡にはあります。

それから、高岡御車山祭は重要有形民俗文化財、重要無形民俗文化財の両方に指定されています。これは全国でも五つぐらいしかありません。世界に誇る日本の文化だということでユネスコから指定されたわけです。

これらが高岡の町の中にそろっていることが非常に大切です。日本遺産の認定を受けるときも、いろいろな認定のタイプがあったのですが、地域として指定されることに随分こだわりました。それは、町の中に文化や歴史がちゃんと育っていることが大事だと思ったからです。私は歴史・文化を保存する、継承するという言葉をできるだけ使わないようにしてきました。なぜなら、保存や継承をするということは、そこで停滞していることになるからです。ですから、文化を守るのではなく、創造的に発展させることを考えてきました。

もう一つ私がラッキーだったのは、市長在任中に北陸新幹線が開業したことでした。これはビジネス面でも観光面でも大変大きな出来事でした。開業前、新幹線のダイヤが発表されたとき、私はブラジルに滞在していて、電話で報告を受けました。最初の報告では「速達タイプの『かがやき』が新高岡に止まらないことになった」と聞き、想定内だったので全く驚かなかったのですが、第2報で「10本の『かがやき』全てが止まらないことになった」と聞いて驚きました。何とかならないかとブラジルからあちこちに連絡を取ったものの、結果としてはどうにもならなかったのですが、「かがやき」を新高岡に止めようということにはなりました。

恵まれた時代(2)

■文化の力=想像力、創造力、革新性

○保存や継承に止まらない「文化創造」⇒「創造都市高岡」

■新幹線開業⇒「大交流」時代+「文化の時代」

○そこにある文化を、磨き、創る

○交流(異なる価値観との接触)の中で発見される文化を
「磨き」・「つなぎ」・「創る」

⇒最もクリエイティブな産業として、文化や観光の展開

その後、北陸新幹線は敦賀まで延伸したわけですが、新高岡に止まる便が今後増えることが期待されます。富山から西に向かう「つるぎ」は随分増強されたようですが、「つるぎ」にも速達タイプと各駅タイプがあり、速達タイプは高岡にも止まることになったようです。これもいろいろ交渉や調整が行われた結果でしょうけれども、敦賀延伸によって高岡の立ち位置は少し変わってくると思います。これまで高岡は東京から見て金沢の手前であることが売りでしたが、これからは大阪から見て金沢の先にあることが売りになるでしょう。高岡は東京からも大阪からも近い、「ディープな北陸」が「売り」だと思います。

観光の基本は非日常であり、高岡にはどのような非日常性があるのか、ぜひクリエイティブに考えていただきたいと思います。文化創造都市・高岡のキャッチフレーズが「磨き」「つなぎ」「創る」だったように、そうした魅力を見つけて磨いて、いろいろな価値観をつないで、創り上げていくことが大切です。そのためには新幹線が大きな要素を果たすと思いますし、高岡はそういった材料がいろいろとそろっている町だと思います。

03

「先生」と呼ばれて

私は今、高岡法科大学で教える立場にいます。今までは教えられたことを実践する立場でした。要するに、市長時代はアウトプットばかり行っていて、インプットがあまりなかったように思います。学生を教えているので今もアウトプットする側なのですが、アウトプットするものが異なります。今は学生たちに体系的に教えなければなりません。そうすると、体系の隙間を自分なりに埋めなければならないので、一生懸命勉強しないとイケません。勉強することで、知らないことがあるということを知る毎日ですが、楽しく勉強しています。法科を志向する学生たちの多くは目標を持っていて、

中には警察官や公務員を目指してしっかり勉強している学生もいます。ただ、法科は公務員になるためだけの学問ではありません。私は一般教養だと思って学生たちに教えています。どの分野に進むにしろ、どこを調べれば答えが出てくるかが分かるように、法律の心を身に付けてほしいと思っています。

これからは、北陸新幹線の活用以外にもポストコロナ、少子高齢化への対応についても考えていかなければなりません。そのためには生産性を上げるしかないでしょう。生産性を上げるためにはAIやITの活用が必要だと思いますが、リスクもありますので、そこをどうコントロールしていくかがこれから重要になるでしょう。そうして一人一人、地域地域の価値を磨き、創り、高めることで生産性を上げていくことが地域社会の生き残る道ではなからうかと思っています。

そして、「これから」

■北陸新幹線敦賀延伸(近畿圏への接近)

○富山県、高岡、呉西地域の新たな立ち位置⇒ディープな本物の北陸・日本
⇒東京からも大阪からも、身近な、非日常

■ポストコロナ、少子高齢化、人口減少に向かって

○AI/ITなど、先端技術の活用、一人ひとりの「生産性」向上
※アルミを含む地域資源活用や地域の特色的な産業の展開
○アルミリサイクルの共創拠点の活動に期待

⇒挑戦こそが勝利に繋がる

上下逆転
させてみて
ください



高橋 正樹 (たかはし まさき)

1977年 4月 自治省(現総務省)入省…神奈川県、消防庁、臨時行政調査会事務局、宮崎県、熊本県、自治体国際化協会に勤務
1997年 7月 消防庁救急救助課長、大臣官房文書課長
2001年 1月 [省庁改革により総務省発足] 総務省情報通信政策局地域放送課長、自治財政局財務調査課長
2002年 7月 新潟県副知事
2006年 4月 総務省統計局統計調査部長、大臣官房審議官(税務担当)
2008年 8月 財団法人地域創造常務理事(2009年5月まで)
2009年 7月 高岡市長(2021年7月まで3期)この間、富山県市長会会長、全国市長会副会長、同会都市税制調査委員会委員長、相談相役を歴任
2022年 4月 高岡法科大学教授 現在に至る

アルミ産業に関する高岡市の動向や支援

高岡市産業振興部産業企画課 課長 今方 順哉 氏

JUNYA IMAKATA



1 はじめに

富山県アルミ産業協会の会員企業の皆様におかれましては、日頃より高岡市のものづくり産業及び地域経済の発展に多大なるご尽力を賜っており、感謝申し上げます。

今年の元日に発生した能登半島地震では、最大震度7を観測し、本市でも観測史上初となる震度5強が観測されました。改めて、お亡くなりになられた方々に心からお悔やみを申し上げますとともに、被災された全ての方にお見舞いを申し上げます。人的被害はさることながら、広い範囲で液状化などの大きな被害にも見舞われ、皆様方におかれましても、復興に向けてご尽力されていることと存じます。本市では、3月25日に高岡市震災復興計画を策定して公表しました。これまで経験したことのない災害を乗り越え、一日も早い復旧・復興を推し進めるとともに、ハード・ソフトの両面から、計画的に『強い高岡』を構築してまいります。

2 地域性を活かした資源循環社会へ

さて、これまで高岡市、ひいては富山県の産業を牽引してきたアルミ産業ですが、持続的な発展を遂げるためには、これまでの延長線上ではない「脱炭素」という新たな取り組みが求められてきています。国では、2050年にカーボンニュートラルの実現を目指し、温室効果ガスの排出量が実質ゼロという目標を掲げております。



脱炭素先行地域

再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化に加え、産業部門においては循環経済の社会実装が強く求められており、鎌倉では、プラスチックの資源循環に向けて先進的な取り組みが行われています。

高岡市では、資源循環と脱炭素をかけあわせることにより、持続可能な環境と経済の好循環を創出することを提案し、環境省の「脱炭素先行地域」に昨年11月に選定されました。その中では、再生可能エネルギー源として、太陽光発電設備を設置していくこととしており、パネルのフレームや架台にアルミが大量に使用されていることから、資源循環スキームの構築が可能と考えました。市内には製品の製造から消費、回収、2次合金メーカーなどの資源循環を社会実装するためのプレイヤーが揃っています。



本市としては、企業団地や中心市街地などの地域特性を活かしながら、あらゆる段階で資源の効果的かつ循環的な利用を図る循環経済（サーキュラーエコノミー）の社会実装を目指します。

また、富山大学においても、アルミを中心とした富山ならではの循環経済モデルを確立するための取り組み

が進んでいます。この事業は、科学技術振興機構のCOI-NEXT（共創の場形成支援プログラム）の本格型に採択され、今後10年間、この課題に取り組むこととなっています。本市もこの事業に参画しており、脱炭素先行地域における取り組みと連携し、より高度、かつ純度の高いアップグレードリサイクルの実現に向けて取り組んでいます。

3 市内事業者に向けた支援策

今ほど述べましたように、カーボンニュートラルの実現に向けた機運が非常に高まっており、省エネルギー化や創エネルギー、循環経済の社会実装が喫緊の課題であります。もちろん、市だけで成し遂げられる課題ではなく、産業界の協力が欠かせません。そのため、時代の潮流にマッチした次世代の産業を構築するため、市内事業者の脱炭素に向けた取り組みを後押しするための支援施策を準備しておりますので、この場を借りていくつか紹介させていただきます。

①カーボンニュートラル対策等支援補助金

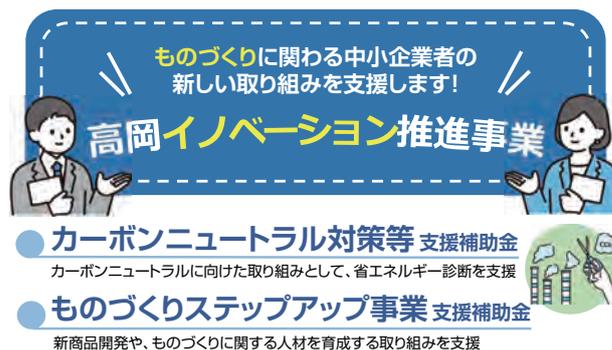
省エネ診断実施機関（省エネルギーセンター及び省エネお助け隊）による省エネ診断を実施する場合に、補助率2/3・上限30万円で補助するものです。ただし、国・県等の補助により低廉な料金で実施する場合には対象外です。

②ものづくりステップアップ事業支援補助金 （リサイクル・アップサイクル枠）

従来からある新商品開発の補助金に、新たにリサイクル・アップサイクル枠を創設しました。廃棄物等を原料又は活用した新商品を開発する場合には、補助率2/3・上限75万円で補助します。

③チャレンジ新商品（脱炭素商品枠）

チャレンジ新商品は、市内企業が新たに開発した商品を認定し、販路の拡大を支援するとともに、認定した商品を市が優先的に購入できる制度です。これまで、本市の補助金を受けたもの等について新商品を認定しておりましたが、新たに脱炭素化に資すると認められるものも認定することとしました。



※このほか、人材活用やデジタル化、販路開拓等の補助メニューも準備しています。詳しくは、高岡市役所産業企画課（TEL:0766-20-1395）まで。

4 おわりに

本稿では、カーボンニュートラルに関連する話題を中心に紹介させていただきました。アルミ産業の皆様においては、エネルギー価格や資材価格の高騰など、厳しい経営環境にある中、カーボンニュートラルという持続可能な社会の実現に向けて新たな局面を迎えています。

アルミ産業が時代の波に吞まれることなく、今後、さらなる発展を遂げるためには、失敗を恐れない挑戦が必要です。そのためには、積極的な設備投資と、「循環」という新たな考え方への対応が必要だと感じています。本市では、これまで皆様の挑戦を応援し、支援策を講じてきました。今年度は「循環」をテーマに、ヒト、モノ、コトの「循環」を促していく計画です。限りある資源・リソースを余すことなく活用するため、また、カーボンニュートラルを達成した次世代のアルミ産業を構築するため、これからも支援していきます。



高岡市役所 産業振興部 産業企画課

所在地 〒933-8601 富山県高岡市広小路7番50号
TEL 0766-20-1395
FAX 0766-20-1287
Mail sangyo@city.takaoka.lg.jp

● 30周年の美術館

黒部市美術館は黒部市堀切の総合体育センターなどがある総合公園の一角にあります。街の中心部よりも北側に位置し、富山湾にも比較的近い場所にあります。近年は総合公園の隣に「KOKOくろべ」という道の駅もオープンし、賑わいも生まれてきました。美術館は、平成6年黒部市制施行35周年を記念してのもので、市内の篤志家が文化向上のために行った寄付が原資となり建設されました。延床面積421㎡、建築面積790㎡の比較的小規模の施設です。



建物は大屋根の中央部がやや膨れていることで現代建築にありがちな鋭さよりもある種の寛容な温かさを醸し出しています。また、屋根の最上部には冬に備えての雪割りと呼ばれる突起と山型の天窓が自然光を取り入れるように設計され、世界一美しいと称される北欧デンマーク・コペンハーゲンのルイジアナ近代美術館がイメージの元になったと言われています。さらに外界とのつながりも意識され、玄関口のすぐ横に広がる葎の密集する沼原は黒部のダイナミックな自然を暗示するとともにこの美術館の見所でもあります。本美術館は今年で30周年を迎えます。これまでも<多彩な美術活動を紹介する親しみのある美術館>を基本方針として、郷土色豊かな展覧会から全国的視野に立つ展覧会など、柔軟で親しみやすい企画展や所藏品展を開催してまいりました。具体的には多様化する現代の美術を様々な角度から紹介するため、第一線で活躍する若手～中堅の現代美術作家の作品に焦点を当てて来ました。また身近で親しみやすいという観点では絵本原画展やクラフト作品の魅力なども逐次紹介してまいりました。さらに宇奈月のセレネ美術館や吉田科学館、市立図書館、また

近年では魚津の埋没林博物館など近隣の文化施設との連携も活発化させています。

● 近現代の版画コレクションと美術の普及

収蔵するコレクションの観点では黒部を中心とした県内外のゆかりの作家の収集、さらに<特色ある版画の美術館>として国内における近現代の版画作品の収集を行っています。



こちらはテーマを設けて定期的にコレクション展を開催し、随時市民に公開しています。また本美術館は、<創造の芽を育てる美術の普及>も基本方針として大きく掲げており、企画展に関連した制作講座や講演会、子供たちが参加する作品制作など美術と親しむ機会を随時設けています。具体的には、市民参加のワークショップや交流会、デッサンや版画制作講座、小中学校対象の作品鑑賞会や実技演習等の出前授業、各種イベントの開催など美術をメインとする様々な活動を年間通じて行っています。広報面では専用のホームページを開設し、企画展や各種イベントの情報を随時発信しています。

さらに<くろびフレンズ>という美術館サポーターによる活動を行い、交流の輪を広げるとともに各参加者によるパーソナルなレベルでの発信も行っています。

●多様化する美術を紹介

最近の企画展でいえば、本年1月宮城県気仙沼市のリアス・アーク美術館の協力のもと、東日本大震災の写真と被災物をお借りし日本海側で初めて公開いたしました。同展は「海と生きる、記憶をたどる物語」と題し、日本海とも近い本館ならではの視点により企画されました。偶然にも開催直前に能登半島地震にも遭遇し、地震や津波を自分たちの事として切実さを持って体感した次第です。



「海と生きる、記憶をたどる物語」展(2024)公募作品の展示風景
撮影:柳原良平



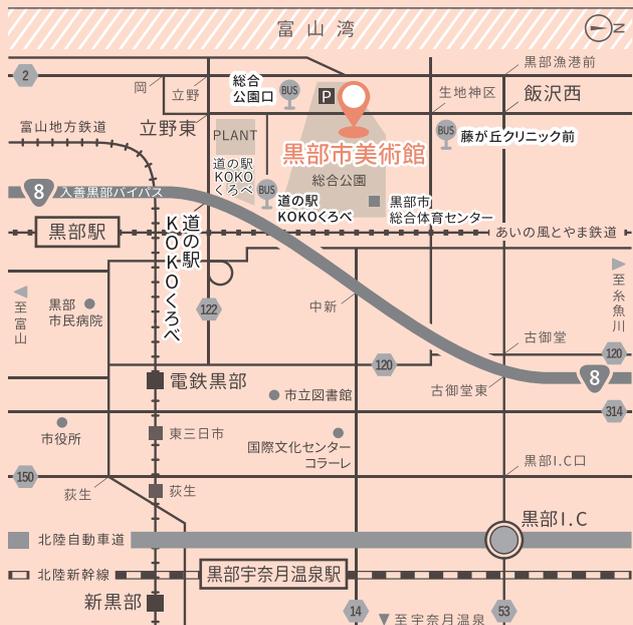
山下麻衣+小林直人《infinity~mirage》2021年、2023年～、
生地海岸に設置されたm型看板
撮影:柳原良平

また本展覧会では黒部市の方々を中心に「記憶や大切なもの」をテーマに作品募集し、多数の市民作品を同一会場に展示することが出来、地域に根づく美術館としての役割を今一度再確認出来ました。さらに昨年度からは「infinity~mirage プロジェクト」と銘打って黒部市生地海岸の護岸に大きな「m」型の看板を設置し、対岸の魚津市側から見る蜃気楼の影響で「m」が反転し「∞ 無限」の像を浮かび上がらせる野外プロジェクトを魚津市と共同で行っています。これは自然科学とアートがうまく結びついた事例で、日々変化する蜃気楼の様子は映像を通じてライブ

配信され、地域特有の現象に留まらず世界中から観察・鑑賞できる魅力的なランドアートとなっています。これは2021年度の現代美術企画展が発端となった作品のアイデアを再度実現させたもので、地域と美術館が連携し館の外にもアートを提示することで多様化する現代人の思考を拡張しようと試みたものです。またこの試みは単なるアートに留まらず近隣の施設や住民を巻き込む形で、スタンプラリーやEバイクを使つてのツアーなど観光や街づくりの視点からも期待されています。

●さらに愛される館として

黒部市は海あり山あり、新幹線駅や宇奈月温泉街、黒部川扇状地やトロッコ電車、生地鼻灯台やくろべ牧場などダイナミックでスケール感のある自然に囲まれています。そのような環境の中にある美術館として、今後とも多くの市民に愛される館として、～40周年～50周年を目指して参りたいと思います。



- 黒部市美術館
- 〒938-0041 富山県黒部市堀切1035 (黒部市総合公園内)
- TEL&FAX: 0765-52-5011
- 開館時間/9:30~16:30 (最終入館16:00)
- 休館日/月曜日、祝日の翌日、年末年始、展示替期間ほか

●館長経歴

1954年生まれ
1978年金沢美術工芸大学油絵科卒業
1978年～2020年 富山市職員として奉職
(主に芸術・文化関係分野の職域に従事)
2012～2015年 富山市民俗芸村 村長
2015～2020年 富山市董牛人記念美術館 館長
2020～2024年現在 黒部市美術館 館長
NPO法人アポロン理事長(2015年～古民家の維持・管理・活用を図るNPO)
幼少期より絵画・造形を中心とした創作も続けている



構想を現実に

半世紀に渡り培った鋳造技術で、アルミ鋳物を生み続ける

当社は1955年の設立以来70年に渡り、アルミ鋳物の製造を通じて「人々に喜ばれる商品の提供」を行い、「たゆまぬ技術の追求と蓄積」「人々に感謝される人格の形成」を理念として参りました。

■主な生産品目

- 住宅向けエクステリア製品
 - ・門扉・フェンス、玄関ドア飾り鋳物など
- 公共向け景観製品
 - ・橋梁高欄パネル、フェンス、支柱ベース、柱キャップ、手すり部材など
- その他
 - ・住宅向け表札（鋳物、ガラス、SUS）
 - ・アルミ型材加工品（機能門柱フレーム、スクリーンフェンス）

当社では、生砂を用いた「砂型鋳物」を、2つの自動造型機ラインで生産しております。

1つは枠サイズ1500×1100×150（mm）でパネル系鋳物を、もう1つは枠サイズ450×550×280（mm）で小物部品系鋳物を生産し、量産化・コスト低減に対応しております。

他にも、F1モールドینگマシンの生産ラインや、2000×1000（mm）程度の大型枠サイズの生産にも対応しており、そうした自動化されていない生産手法を若手に経験させることで、鋳物屋として鋳造技術の伝承を図っております。

当社では、お客様がイメージ書きされたものからでも図面を作成し、型を製作して鋳物を作り出します。こんなものを作りたいという思いをお持ちであれば、「構想を現実に」する宮木製作所へ是非ともお声かけください。



本社・工場外観

株式会社宮木製作所

〒933-0951 富山県高岡市長慶寺1000番地

miyaki

Production equipment 生産設備

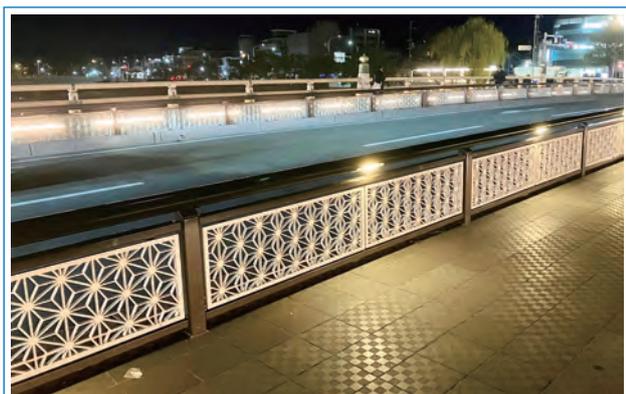


パネル系自動造型機



小物部品系自動造型機

Product examples 製品事例



橋梁高欄パネル



橋梁高欄パネル



ベンチ (脚部、背もたれ部)



窓面格子



連結部品類

TEL:0766-23-8539 FAX:0766-22-7730 [web] <http://www.miyaki-tec.co.jp/>

新入社員研修を開催しました。

■4月2日(火)…マナー研修

昨年に続き、I.S.K有限会社 大友 夕可里氏(元チューリップテレビアナウンサー)を講師にお招きし、12社から21名の新入社員が、「ビジネスパーソンとしての基本とマナー」と題し、社会人(組織人)としての心構えと意識付けで始まり、挨拶および言葉づかいなどのビジネスマナーの基本I&IIを学びました。

受講された皆様が、一日も早く立派な社会人として成長し、ご活躍されることを願います。



■4月3日(水)…安全衛生研修



三協立山株式会社 安全衛生部 柴田 隆氏・米沢 吉彰氏のお二方の講師のもと、31名の受講者が、新入社員として心がけるべき安全衛生のルール、作業に対する心得、健康管理などを学びました。

また、危険予知の訓練として「KYT4ラウンド」を通し、危険に対する意識づけを行いました。今回の安全衛生研修で学んだ「自分の身は自分で守る」を常に意識し、健康で安全に業務に従事されることを切に願います。

■4月4日(木)、5日(金)…アルミ建材加工組立技術研修

三協立山株式会社 三協アルミ社 技術開発統括部 商品管理部 部長 大友 敏克氏および初期流動部 初期流動課の湊川 慶彦氏・宮田 裕氏、他1名の講師のもと、11名の受講者が、アルミの特性・アルミサッシの一般知識



・図面(姿図および加工図)の見方・ノギスによる測定その他、エアードライバーを使い、サッシの組立実習を行いました。

受講された皆様が、一日も早く戦力となり、ご活躍されることを願います。

「中堅社員ものづくりセミナー」を開催しました。

6月6日(木)、7日(金)の2日間に渡り、ポリテクセンター富山で現場監督者及びスタッフ部門のものづくりに携わる中堅社員を対象にM&P研究所とやまの竹村所長を講師に迎え、ものづくり能力(品質、コスト、納期)を高める考え方・手法を学びました。

また、6月10日(月)には、2日間のセミナーで学んだことの復習としてアイシン軽金属株式会社様を会場に「模擬ラインを活用した改善の進め方」を現地・現物で分かり易く説明していただきました。



NEWS 03

ゴルフ大会開催

第60回会長杯親睦ゴルフコンペを開催しました。

6月15日(土)、花尾カントリークラブで32名の自称プロ参加のもと、会長杯親睦ゴルフコンペを開催しました。当日は、天候にも恵まれ絶好のゴルフ日和の中、和気あいあいとプレーを楽しまれました。なお、今大会では株式会社三輝の杉本一氏が、優勝の栄冠に輝きました。



優勝	杉本 一	株式会社三輝
2位	竹下 昌孝	株式会社タケンタ
3位	安居 吉孝	ST物流サービス株式会社
4位	向 祐一郎	三進運送株式会社
5位	大川 公一	三協テック株式会社富山



NEWS 04

6月例会開催

6月例会講演会を開催しました。

6月28日(金)高岡商工ビル10階会議室において42名出席のもと、6月例会を開催しました。今回の例会では、廣上総務広報委員長の挨拶に続き、株式会社産業新聞社 中部支社 日刊産業新聞の担当部長 服部友裕氏から『世界の金属資源循環の現状』と題し、台湾やインドなど、海外での取材活動で得た資源循環の現状を記者の視点で約70分間に渡り、熱く講演いただきました。



NEWS 05

夏季講座実施

第54回軽金属教育夏季講座を開催しました。

7月2日(火)、3日(水)の2日間、富山大学軽金属材料共同研究棟において、「軽金属教育夏季講座」を開講しました。各社の若手技術者27名が受講し、富山大学学術研究部の各先生の講義を熱心に受講していました。



- 1日目…・「軽金属鑄造学」附田講師
 - ・「アルミニウム材料学」松田教授
 - ・「アルミ表面処理」砂田名誉教授
- 2日目…・「軽金属加工学(押出加工)」船塚助教
 - ・「アルミニウム溶接学」柴柳教授
 - ・「軽金属加工学(切削加工)」高野講師

新入社員研修レポート 01

「マナー」を受講して

大栄建材株式会社 平野真翔

■自身の気づき

言葉づかいや電話対応など、自分自身まだまだダメだと改めて気づきました。また、会社の一人の代表として来ていることを自覚し、責任を持って行動することが重要だと思いました。

■取り組むこと

言葉づかいは、普段の生活から少しでも意識すること。間違ってもハッキリ話すこと。ミスに気づき、少しずつ改善していくこと。



新入社員研修レポート 02

「安全衛生」を受講して

株式会社宮木製作所 海老史奈子

労災に関して、実際に起こった事象を話してくださったことが身近に感じ、より危険さも伝わり、働く上で、生活する上で『安全衛生』がどれだけ大事なのか、研修を通してわかりました。

KYTでは、自身の危険に対する想像力の乏しさを痛感したので、常日頃から意識していかなければいけないと思いました。

新入社員研修レポート 03

「アルミ建材加工組立技術(1日目)」を受講して

宮越工芸株式会社 飯野那々子

アルミニウムの原材料(ボーキサイト)からアルミニウムの塊(インゴット)への加工工程を、映像や実際の資料(ボーキサイト・アルミナ)を見ながら知ることができました。

アルミサッシの図面は、初見ではどの線がどのパーツを示しているのか理解できませんでしたが、三角法を学ぶことで、どの方向から見たときの図面なのかイメージする技術を得ました。



新入社員研修レポート 04

「アルミ建材加工組立技術(2日目)」を受講して

株式会社三昌 柴田雄大

アルミサッシの組立では、貴重な経験ができました。メーカーで実際に作られている製品を実際の流れに近い方法で組立を行い、それぞれの部品がどのような役割をしているか知る機会になりました。

弊社の組立も似たようなものがあるので、今回の経験を活かしていきたいと思います。

各委員会の動き 98

運営委員会報告

運営委員会・理事会を開催しました。

5月10日(金)運営委員会、理事会が開催されました。2023年度事業報告並びに計算書類の報告・監査報告の審議に続き、役員の変更について審議されました。また、2024年度役員体制(案)や優良従業員表彰式のほか、軽金属教育夏季講座、例会等の事業計画(案)について報告しました。

委員会報告

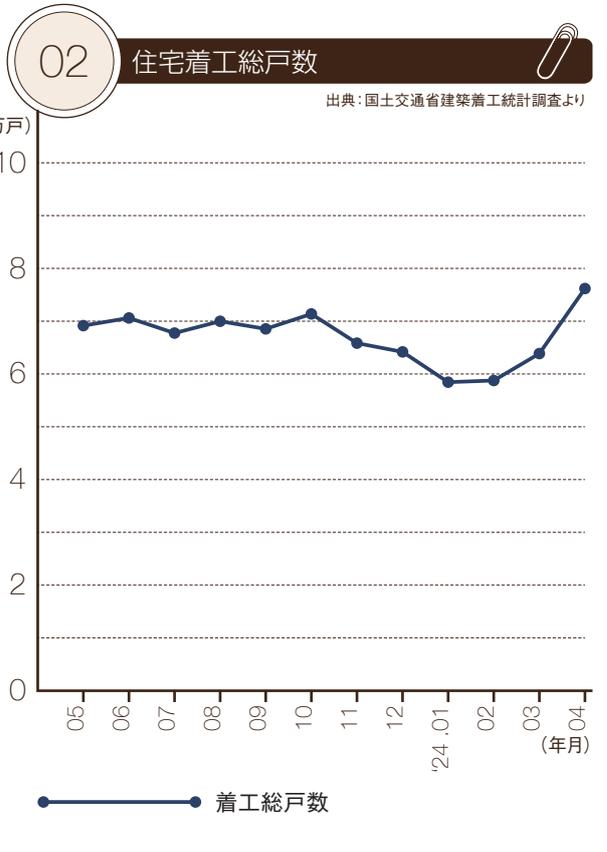
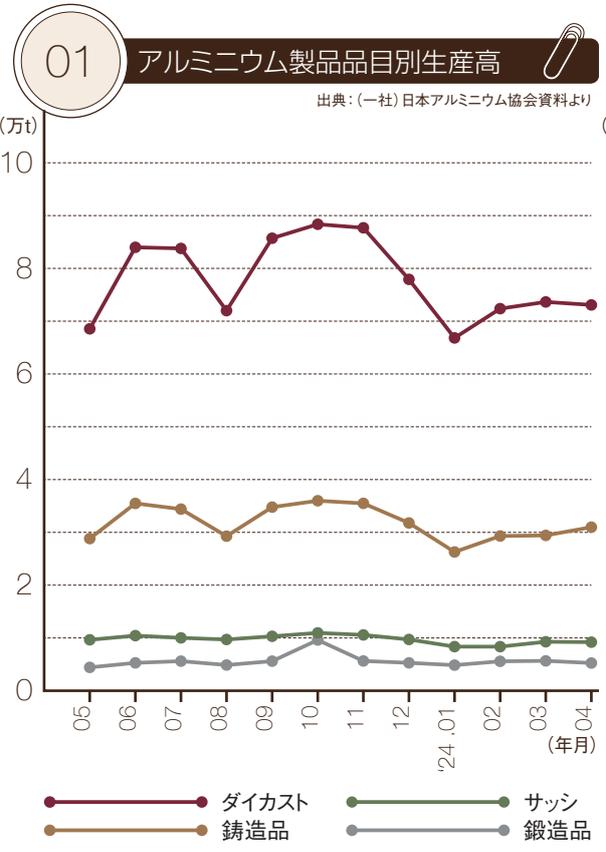
各委員会を開催しました。

6月24日(月)技能技術委員会、6月25日(火)総務広報委員会、7月5日(金)経営労務委員会を開催しました。2024年度所轄事業の進捗状況報告の後、8月例会と暑気払い、デジタル人材育成、先進地企業視察等の事業計画を報告、審議いただきました。また、TONIOイノベーション推進センターより「デジタル化のお手伝い」について紹介がありました。

Statistics of aluminum

アルミの統計

**「アルミニウム製品品目別生産高」
「住宅着工総戸数」**



Welcome fellow !!

新会員企業紹介

クルマ商事株式会社

〒939-0287 富山県射水市赤井230
TEL:0766-52-1075 FAX:0766-52-3509

クルマ商事株式会社は、金属商とくに非鉄金属を取り扱う問屋として事業を始め、その後高岡におけるサッシ加工業の飛躍的な発展とともにステンレス鋼の扱いを始めました。最近、脱炭素化・資源循環経済に向け企業にも環境にもやさしい商品やサービスの提供が求められています。

ものづくりの使用材料の減量化やリサイクルなどを通じ地球環境に配慮しながら、色々な方法で無駄を排除し原価を抑えようかといったところに重点を置くようになってきています。

今後も、弊社はステンレスと非鉄金属の両輪を駆使して安価、安心、安全を提供し、皆様方の事業の発展に寄与させていただくことに全力で努力致します。

今後、富山県アルミ産業協会の皆様方とともに富山県のアルミ産業に微力ながら貢献していきたいと思っています。

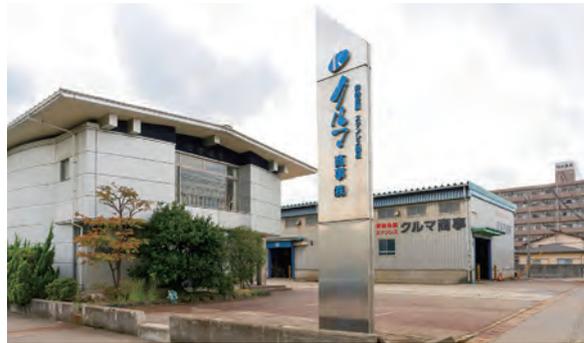
代表取締役

車 英里

KURUMA ERI
趣味●登山、酒場放浪



皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



Welcome fellow !!

新会員企業紹介

株式会社アルキャン

〒933-0957 富山県高岡市早川233-1
TEL:0766-27-6007 FAX:0766-27-6077

私たちは、アルミの可能性を追求し、職場からご家庭まで、人からペットまでの「最高の空間づくり」を目指しています。空間をプランするために重要なのは、働き方や暮らし方、価値観や健康状態などを、お客様との会話の中から推し量り、相手の立場に身を置くことだと考えます。人々に、生き物たちに、私たちの技術力と創造力で何ができるのか？そんな思いやりの心を常に持ちながら、空間プランニングとよりよい環境づくりを構築してまいります。



代表取締役

関澤 浩

SEKIZAWA HIROSHI
趣味●ゴルフ



日本酒を愉しむ

アイシン軽金属株式会社

MY HAPPY TIME

令和6年元日の能登半島地震で、被災された方々に対し、お見舞いを申し上げます。

震災から4か月たった今でも能登半島地区の皆さんは避難生活を継続され、生活も仕事も大変な状態にあるとお聞きいたしています。中でも、100年以上の歴史がある能登地区11酒蔵の被災状況は甚大で、酒造りが絶望的な酒蔵さんもあると聞きました。

厳しい状況の中、全国の酒蔵から有志が支援に入り、被災現場で残っている酒タンクから、熟成もろみを取り込み上槽したり、ビン詰め作業を他府県の酒蔵でしたり、ものすごく感動する支援が行われています。

そのような中、私ができる支援は、能登地域の地酒を積極的に購入することであると思ひ、飲食支援活動をしています。富山の酒蔵も被災していますので、皆さんには、被災地の支援にご協力いただきますようお願いいたします。

この度、「私のひとときの寄稿」の機会をいただき、皆さんに、私の酒に関するウンチクの傾きと北陸支援に協力ができることをありがたく思っています。私の日本酒ウンチクは、5年ほど前から参加している、地元酒屋さん主催の「(日本酒を愉しむ)和飲学園」です。勉強会の基本方針は、「優しく学び楽しく飲む」であり、自分の味覚にマッチングするお酒を探しつつ、少しづつウンチクを身に付けていく、ゆるい勉強会です。毎月、北陸の地酒を中心に、お米や水や醸造方法そして温度、酒器などの違いが、香りや味覚そして旨味にどのように



代表取締役社長
西川 一浩

NISHIKAWA KAZUHIRO

関係するかを毎回6種類以上のお酒で飲み比べをする、実体験中心の学びの場で、勉強会後半は、気分が良くなり、味覚も怪しくなるのが常です。

受講生全員が楽しんでいるのは、地元高岡の清都酒造場「勝駒飲み比べ」の日です。しばらくたて原酒、純米、大吟醸、特吟、そして純米大吟醸など8種類をラベル表示してある「酒米品種、精米歩合、酸度、アルコール度など」を確認しつつ、味や風味そして旨味などの違いを五感を研ぎ澄まして感じ取ろうと頑張りますが…。毎回、「どれも、これも美味しいね。飲みすぎて、味がわからないね。」と、ただの飲み会になってしまうので、なかなか勉強会を卒業できないでいます。

また昨年、特別企画があり、朝日町の林酒蔵場に眠っていた「全国新酒鑑評会金賞受賞酒」を飲むことができ

ました。この酒蔵は400年の歴史があり、杜氏は蔵元の林秀樹さんです。十数年の間に全国新酒鑑評会金賞を5回、入賞3回を受賞する全国屈指の杜氏です。爽やかで後味



がドライなタイプで、料理に合う絶品です。是非みなさんに味わっていただきたいお酒です。

美味しいものを食し、飲むことが心身を健全にする最良の方法と考えています。暗い話が多い時世ではありますが、皆さんの少しでも足しになれば幸いです。

ご清覧ありがとうございました。